

ラジオ番組「聞いて、知って、福島環境再生と未来」4県5局で放送！

フリーアナウンサーの藁谷 麻美(わらがい あさみ)さんが現地を訪ね、中間貯蔵施設と飯舘村長泥地区の取り組みについて、インタビュー形式で分かりやすくお伝えします。

2026年10月の毎週火曜に、ふくしまFM、ラジオ福島、エフエム仙台、エフエム栃木、LuckyFM 茨城放送で全4回放送。環境再生プラザホームページでアーカイブ公開します。

ぜひお聴きください。

アーカイブは
こちら！



放送内容はこちら！

第1回『中間貯蔵施設の概要』10月6日(火)



福島の復興の歩みを支える中間貯蔵施設。今とこれからを現地からお届けします。

◀中間貯蔵事業情報センターにて

第3回『放射性物質と中間貯蔵施設』10月20日(火)



「安全」を支える取り組みとは。貯蔵されている土の管理と放射線について解説します。

◀土壌貯蔵施設で放射線測定体験

第2回『中間貯蔵施設の意義』10月13日(火)



除去土壌の県外最終処分に向けて。中間貯蔵施設の役割と、鍵となる取り組みを伺います。

◀道路盛土実証事業の現場へ

第4回『土を活かす』(花の里 長泥) 10月27日(火)



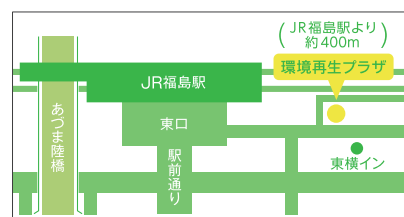
飯舘村長泥地区を訪れ、復興再生土を農地造成の盛土として利用する事業や花の栽培を紹介します。

◀花き栽培ビニールハウスを見学

環境省の情報発信拠点

見学会やイベント等の詳細につきましては、各施設にお問い合わせ下さい

● 環境再生プラザ



- 所在地 福島県福島市栄町1-31 1階
- 開館時間 10:00～17:00
- 休館日 月曜日、年末年始(月曜日が祝日の場合は翌平日)
- 電話番号 024-529-5668



● 中間貯蔵事業情報センター



中間貯蔵事業、除去土壌等の復興再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島の復興・環境再生の取り組みについて紹介しています。

毎月、中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。



- 所在地 福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番5 CREVA おおくま(大熊町産業交流施設)1階
- 開館時間 9:00～17:00(最終入館16:30)
- 休館日 火曜日、年末年始(火曜日が祝日の場合は翌平日)
- 電話番号 0240-25-8377

● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



- 所在地 福島県双葉郡富岡町大字上郡山字太田526-7
- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日、年末年始(月曜日が祝日の場合は翌平日)
- 電話番号 0240-23-7781



● 花の里 ながどろ 環境再生情報ひろば



飯舘村長泥地区で実施されている環境再生事業の経緯や概要、福島県内で発生した除去土壌の復興再生利用や最終処分について紹介しています。

定期的に長泥地区環境再生事業見学会(事前申込制)を開催しています。



- 所在地 福島県相馬郡飯舘村長泥字長泥815-1
- 開館時間 10:00～16:00
- 休館日 水曜日、年末年始 ※冬期は積雪の状況により閉館することもあります
- 電話番号 090-9370-2590

ふくしま環境再生 Vol.38



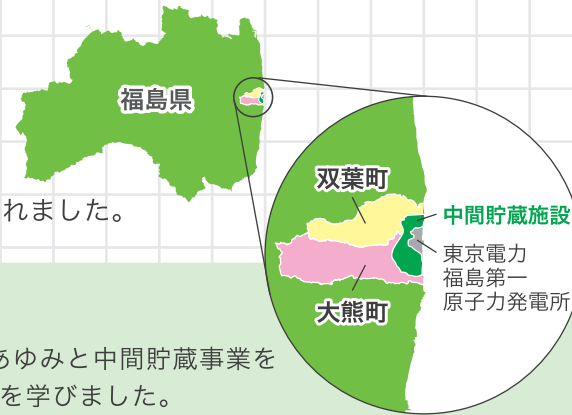
中間貯蔵施設 サンライトおおくま見晴台

「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

現地で見て、考え、伝える 桜の聖母学院高等学校新聞部が中間貯蔵施設を取材見学ー

高校生記者が見た 中間貯蔵施設の今

2026年8月、桜の聖母学院高等学校(福島県福島市)新聞部の皆さんが、学校新聞の取材のため、大熊町・双葉町に整備された中間貯蔵施設を訪れました。



中間貯蔵事業情報センター \見学スタート!/\

復興と環境再生

ガイダンスと館内展示で、復興のあゆみと中間貯蔵事業をはじめとする環境再生の取り組みを学びました。



没入感のある映像で中間貯蔵施設を巡る
バーチャルシアター



大熊町・双葉町の方々のふるさとへの想いに
耳を傾ける



除去土壌を入れる
大型土のう袋の実物展示

中間貯蔵施設

震災の記憶

当時のまま残された建物を訪れ、東日本大震災と原子力災害が地域に与えた影響を考えました。



津波で半壊した
熊川公民館



大熊町立熊町小学校
机の上には教科書などが
そのままに



土壌貯蔵施設

地面の下には 除去土壌

復興再生土を利用した
道路盛土の実証現場



放射線測定体験
覆土による放射線の
遮へい効果を測定
して確認

Aug. 14, 2026
見学当日は雨空

土壌の今

除染で発生した土は、福島県内各地の仮置場から中間貯蔵施設に運ばれ、保管されています。その現場を見て、膨大な量や規模を実感しました。

考えて伝える 今とこれから

震災の爪痕が残る中間貯蔵施設の取材を通して得た
思いや気づきを紹介します。

VOICES

震災の光景、土のこれから

小学校や老人ホームでは時間が止まったような光景に
衝撃を受けた。学んだことを次の世代へ伝えたい。

初めて現地を訪れ、津波の被害の大きさを実感した。
土の県外最終処分が進み、住民の方々の暮らしが戻る
ようになってほしい。

ついさっきまで小学生がいたかのような当時の情景が
思い浮かんだ。大量の土の行き先など、決して他人事で
はないと改めて感じた。

除染で出た土はどこに行くのか疑問に思っていたが、
中間貯蔵施設で安全に保管されていることを知った。

自分事として考える機会に

見学や説明を通して自分の住む地域のことという実感が
わいた。自分が住民の立場だったらどんな決断を
したのか深く考える機会になった。

実際に現地を訪れ、複合災害を決して忘れてはいけな
いと感じた。今後どのように復興させていくのか、私た
ちは考えていかなければならないと強く思う。



当時のままの建物や自動販売機を見て、災害の大き
さが分かり心が痛くなった。一方で、復興のための道路
盛土などの取り組みが進んでいると思った。

土をどのように処理し、どこに保管しているかを知る
ことができた。地震から手のつけられていない建物や
小学校を見て、震災について考える機会になった。

震災の記憶が薄れつつある中、震災について深く学ん
だ。土壌貯蔵施設では覆土に放射線の遮へい効果があ
ることを知り、関心を持った。

震災当時は幼く記憶が少なかったものの、多くのこと
を学び貴重な体験となった。今後は家族と訪れたい。

震災当時は関西に住んでいて震災についてあまり理解
していなかったが、被災した方々の思いについて考え、
理解を深めることができた。

Column!

桜の聖母学院高等学校新聞部の皆さんに聞きました!

☆新聞部の活動について

現在は11名の部員が年2回の学校新聞や壁新聞、号外
を発行しています。卒業生の進学先を訪ねる『キャン
パス見学記』など、本校生ならではの視点で取材を
続け、本校の魅力を校内外へ広く発信しています。

☆特集記事『中間貯蔵施設で考える 福島未来と私たちの責任』

取材をもとに震災から15年を同世代に伝える特集記事を制作しました。震災直後の本校校
庭の除染風景や今はもう見られない仮置場の写真も使い、紙面を工夫しました。除去土壌の
県外最終処分がどのように進んでいくのか、関心を持って見つめ続けていきたいです。



活動風景



『桜の聖母学院新聞』第144号が完成!



環境省 福島環境局
町田 俊輔 さん

福島復興を支える中間貯蔵施設の役割や取り組みを、現地で分かりやすく
ご紹介します。私たちがご案内しますので、ぜひ見学にお越しください!

現地見学のお申込みは
ホームページから>>>

中間貯蔵事業情報センター



事前申込制

参加無料

見学のポイント

- 中間貯蔵施設は、土壌貯蔵施設をはじめさまざまな施設で構成されています。その面積は約16km²におよび、東京都渋谷区とほぼ同じ広さです。
- 保管されている土壌のうち約4分の3は、基準に従い資材(復興再生土)として安全に利用できるものです。中間貯蔵施設内では、復興再生土を道路の盛土として利用する実証の現場も見ることができます。
- 震災前の町の暮らしや、震災・原発事故後の様子、その後の移り変わりを知ることができます。